平成20年12月発行

ヨコハマ・人・まち

第30号

ーまちの人がまちをつくるー

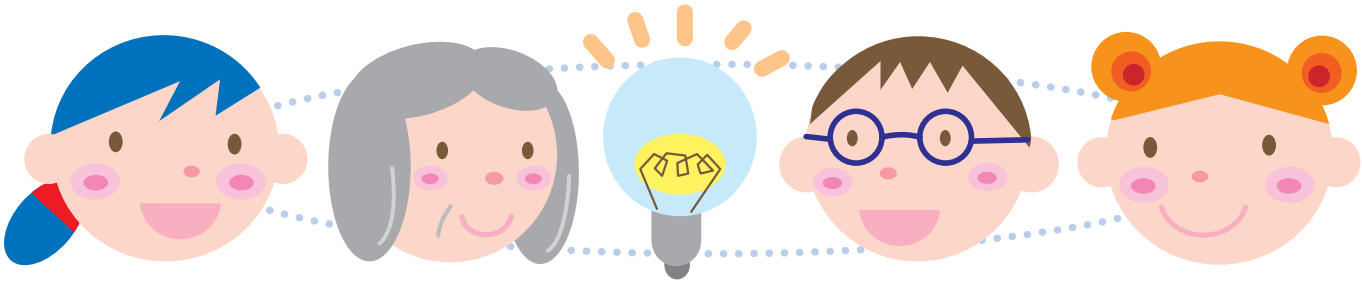
発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部地域まちづくり課　TEL 045-671-2696　FAX 045-663-8641
Email：tb-chiikimachika@city.yokohama.jp
取材・編集：横浜市市民活動支援センター運営委員会　TEL 045-223-2666　FAX 045-223-2888
Email:y-sien-c@npo-c.city.yokohama.jp

【ヨコハマ・人まち　目次】

■福祉のまちづくり　横濱ジェントルタウン倶楽部、在宅支援サービス「さわやか港南」
■オールドタウン馬車道、ガーデンストリート馬車道～時間をかけて話し合い、接点を見出して進めていくまちづくり

福祉のまちづくり

横濱ジェントルタウン倶楽部●在宅支援サービス「さわやか港南」



「福祉のまちづくり」という言葉を聞くと、どのようなイメージが思い浮ぶでしょうか。段差がなく誰もが自分の意思でまちの中を自由に移動でき、さまざまな施設を利用できる設備のあるまちでしょうか。ハード面がバリアフリーであることはもちろんですが、それ以前に、行動が制限されている方、自分の意思が言葉で自由に表現できない方、どのような環境にいる方でも、お互いを理解し合えるという人と人のつながりがあるまちであることが、前提ではないでしょうか。

今回は、障害者自身がまちに出る機会を増やすことでまちや地域の人たちの意識を変えたり、誰もが寄り添い自然に助け合おうという気持ちになれる居場所作りをしている「横濱ジェントルタウン倶楽部」と「さわやか港南」の活動をご紹介します。

横濱ジェントルタウン倶楽部

■こころのバリアフリーからつくりあげる、誰にもやさしいまちづくり

平成11年から「関内駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区協議会」は人にやさしいまちづくりの活動として、商店街で障害者に対応するための接客講座を行ったり、障害者も参加できるイベントを行うなど、支え合い活動を充実させてきました。その後関内駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区の指定期間（～H15年）が終了しても、地域に根付き始めた福祉のまちづくり活動を継続させていこうと、平成16年に横濱ジェントルタウン倶楽部が発足しました。

伊勢佐木町商店街のお祭りでの車いす御輿や、「触る地図（注１）横浜バリアフリーマップ」の作成など、現在でも協議会の時に出来たネットワークの中で続いている活動があります。平成２０年４月には横浜駅バリアフリーマップ作成委員会の一員として触る地図の第２弾「横浜駅さわる地図バリアフリーマップ」（注２）を完成させました。

作成委員会では、駅構内を皆で歩いて地図に必要な情報をたくさん集めましたが、その中から地図に載せるべき情報を取捨選択することはとても難しいことでした。なぜなら、利用する人の障壁となるものは千差万別でありすべての人を満足させるものを作ることには限界があるからです。このときの検討で大切な情報とされたものの一つは、どこに駅員さんがいるかという情報だったそうです。しかし、駅員さんでなくても近くにいる人にいつでも気軽に声をかけられるようなまちをつくることこそ何より大切なことだとジェントルタウンのメンバーは考えたそうです。

このように誰もが理解し支え合えるまちをつくるために、

「こころのバリアフリー」というハンドブックも作成しました。手助けしたいと思う気持ちがあっても、どう接したらよいか戸惑う人も多いと思いますが、このハンドブックには、相手が

困っていることを受け止め、どのようにサポートしたらよいか、またどのような工夫が必要なのかがわかりやすい挿絵と文章で綴られています。このハンドブックを使って現在では、横浜市健康福祉局と一緒に小学校への出前講座も行っています。講座は、障害者とサポーターが一緒に講師として学校に出向き、実際に子どもたちに誘導の仕方を体験してもらったり、サポートの仕方などを学んでもらう内容となっています。ある小学校では全校生徒を対象として「こころのバリアフリー」をテーマにした演劇も行う予定だそうです。このような活動には多くの障害者自身が参画していることが何よりも会の活動の原動力となっているとお話されていました。

また、来街者に情報を提供し移動のサポートも行う「バリアフリー観光」の仕組みづくり、横浜市の中心部に誰もが出入りでき、障害者の雇用も生み出せる「拠点」をつくることが今後の夢だそうです。少しずつでも私たちひとりひとりの心のバリアを無くしていくことこそが、その夢の実現をお手伝いすることにつながるのかもしれません。

（注１）触る地図は、カラー印刷の上に透明な樹脂で凸凹の点や線を載せて、目の不自由な方にも手で触れてわかる地図として作成したものです。
（注２）この地図は日本民営鉄道協会の「鉄道とまちづくりの連携に係るモデルプロジェクト事業」の補助を受けて作成され、京浜急行、相模鉄道、東京急行電鉄の横浜駅で配布、ご案内しています。

横濱ジェントルタウン倶楽部
http://www.yokohama-gentle.jp/

在宅支援サービス「さわやか港南」

■人にやさしいまちをつくればまちも強くなり、人の心を育てればまちも育つ

その時に必要とされること、まちで足りないことをやろう。介護保険事業所でもなく、ＮＰＯでもない、枠にとらわれない活動をしようと、「さわやか港南」が港南区上永谷に事務所を開いたのは平成13年のことでした。その後平成15年にサービスを利用していた方がご自宅を快く低料金で貸してくださることになり、日限山１丁目に拠点を設けることになりました。拠点ができると、その場を活かした活動だけでなく、助け合いやまちづくりのアイデアが次々生まれていきました。また活動を続けていくうちに、実はこの地域は人材の宝庫であることもわかってきました。以前から福祉のまちづくりには教育・防災・環境などいろいろな視点をもった方々の協力が何よりも必要であると考えていたので、医療関係の方、ケアプラザにお勤めの方、保護司、民生委員、学校の先生など、多くの方にお声をかけて協力していただきながら活動を進めていきました。

広い和室では区社協やケアプラザと一緒に青年学級を行い、そこから「ちょいさわ」という助け合いを大切にする活動が生まれました。そして買い物や洗濯、一時保育や留守番などあらゆる困りごとの相談にのる活動を行っていくうちに、利用している方がお互いに助け合おうという気持ちになってスタッフになってくださったり、徐々に活動を

支えてくださる方たちが増えていきました。毎週月曜日の寺子屋では学校の先生だった方が子どもたちの勉強をみてくださっていますが、フリースクールと一体的にカリキュラムを組むことで、若者を社会に送り出すための居場所としての役割も担うようになりました。

このような活動をしている「さわやか港南」は福祉活動の拠点であると思われがちですが、日限山が防災のモデル地区にもなっていることで、自主防災懇談会など地域の防災の拠点の役割も担っています。そのほかまちづくりの大きな柱のひとつとして、安全・安心のまちづくりの講座を行ってまち歩きを行ったり、勉強会を行うことで新たにまちを見直すきっかけづくりも積極的に行っています。

お茶を飲みながら気軽に相談することができるこの心地よい居場所「さわやか港南」は、平成20年８月に港南区の区民活動支援センターのブランチ（サブ拠点）として新たにまちづくりの活動を広げることになりました。入り口にある情報ラックは、様々な情報をまちに提供し、これからは、行政と地域を結ぶ新たな担い手としてネットワークを広げていくことになるでしょう。

まちでは毎日いろいろなことが起こっています。電話がかかってきて「今すぐ手助けがほしい」というようなこともあります。こんな依頼にもすぐに対応する「さわやか港南」の活動は、地域で支えあうことの大切さを知らず知らずのうちにまわりの人たちに伝えているようです。人に優しいまちをつくることとは、人の心もまちも一緒に育っていくということが言えるのではないでしょうか。

在宅支援サービス「さわやか港南」
http://www.kounan-portal.com/3242/
http://www.city.yokohama.jp/me/konan/town/support/siensenta/sprtcntr.html

オールドタウン馬車道、ガーデンストリート馬車道

時間をかけて話し合い、接点を見出して進めていくまちづくり

中区馬車道は、そぞろ歩きが楽しめるようにと、幅のあるレンガ張りの歩道にはベンチや植栽が置かれ、夕暮れにはガス灯に明かりが灯りゆったりとした時間をすごせる街並みとなっています。これは、「馬車道文化と出会う街」をテーマに、大人の本物の街をめざそうというコンセプトで進められた、ライブタウン整備事業（平成７年から15年）（注１）で整備されました。

馬車道商店街は元町のようなファッションストリートでもなく、中華街のように中国の文化や食文化を背景にした街でもありません。馬車道のイメージを考えてみると、みなさんもご存知のように、日本で始めてガス灯に明かりが灯った地であり「日本の異国文化発祥の地」として歴史を大切にしてきた文化がある街だと想像できます。そこで、歴史を感じながらゆったりとした時間をすごせる街並みにしようというまちづくりを昭和50年から始めました。

「馬車道まちづくり協定書」への思い

馬車道らしいまちづくりをするために「馬車道まちづくり協定書」を作り、その後昭和61年には10年間の実績を盛り込んだ改定版を作成しました。その結果、銀行や証券会社など業務型店舗の場合は１階のセットバックを６メートルから１２メートルお願いして空間を街に提供していただいたり、街全体に統一感をもたせるため企業看板を馬車道に出す際は色の調整をするなど、まちづくりに協力していただく場面も多くあったそうです。また、街並みに歴史的建造物を残そうという努力も馬車道商店街協同組合が中心となって続けられ、馬車道商店街には横浜市の歴史的建造物第１号となった建物があります。（日本興亜馬車道ビル）

さらに改定を重ねた協定書が平成16年にできあがりました。馬車道の周辺地区は、馬車道のまちづくりのイメージ・理念に反した業種の店舗も多くある地域でもあります。確かにそれらの店舗も社交文化として街の賑わいを創出していますが、歴史的・文化的資源をもつ街並みとしていくために、この時の改定では、馬車道通の縦軸は商店街協同組合、横軸の通りは町内会が参加し、町内会の方々も一緒になって協議を重ねてつくりあげたものとなりました。その結果、用途の制限及び建築物等の形態意匠の制限について方針を定めることにしました。

地区計画、地域まちづくりルールができました！

地区計画をまとめるときには、地権者約700名を対象に委員を公募し、アンケートやまち歩きも行い「まちづくりニュース」にまとめました。また、商店街協同組合のまちづくりのコンセプトをイメージ図として示し、アンケート実施をおこなったりと時間をかけて周知を積み重ね地域の方々の理解を得ていきました。その結果、横浜市がその内容を反映した馬車道地区地区計画を平成20年3月に決定しました。（注２）

まちづくりを進めていく上ですぐに100%の賛同は得られるものではありません。しかし、時間をかけ話し合いを重ねる努力と街への思いが、協定書や計画を作成し運用していく上での力になり、地域の方々の理解も深まっていきました。

自転車の違法駐輪や歩道への看板設置など、解決しなければならない問題はまだまだありますが、平成20年9月に「馬車道商店街協同組合」が地域まちづくり組織認定を、「馬車道まちづくり協定書」が地域まちづくりルール認定を受けたことにより、街が一体となってお互いが協力し合いまちづくりを進めていく基盤ができました。まちづくりは、自分さえよければいいという気持ちではなく、協力し合ってつくりあげていくものだというのが商店街協同組合のみなさんの思いでもあります。

日本で初めてガス灯が灯った10月31日から今年も４日間馬車道まつりが行われ、多くの人が馬車道を訪れオールドタウン馬車道、ガーデンストリート馬車道を楽しんでいました。これからも馬車道商店街協同組合の皆さんが中心となって、多くの人との話し合いと時間をかけ接点を見出して進めていくことで、さらに馬車道のまちづくりは出会いや交流を大切にし、誰もが安心してまち歩きを楽しめるイメージを目指していくことでしょう。（地域まちづくりルール認定をうけられた馬車道商店街協同組合の方に取材しました）

馬車道商店街協同組合ホームページ
http://www.bashamichi.or.jp/home.html

（注１）　ライブタウン整備事業
http://www.city.yokohama.jp/me/keizai/shogyo/syouten/livetown.html

（注２）　馬車道地区地区計画
http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/tikukeikaku/c-080.html

●まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先：
横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課
ＴＥＬ：045-671-2696 ＦＡＸ：045-663-8641
e-mail ：tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ 人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。
メールマガジンの配信申し込み・停止は、下記のアドレスからお願いします。
http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi

★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら
http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/index.html

横浜市広報印刷物登録第200263号　類別・分類C-JJ110